

**2021 年度**  
**経済学部ゼミナールガイドブック**

**明治学院大学経済学部**

2021 年度 経済学部  
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

# 目 次

演習の履修を希望する皆さんへ … 2

教員によるゼミの紹介 … 3~31

経済学科	頁
犬飼佳吾	3
岡本実哲	4
神山恒雄	5
神門善久	6
齋藤隆志	7
齋藤弘樹	8
坂本陽子	9
佐々木百合	10
白井誠人	11
鈴木岳	12
高松慶裕	13
千葉正憲	14
中野聡子	15
中村友哉	16
室和伸	17

経営学科	頁
赤松直樹	18
飯田浩司	19
池尾恭一	20
稲山健司	21
大竹光寿	22
北浦貴士	23
斉藤嘉一	24
佐藤成紀	25
鳥居宏史	26
西村三保子	27
西山由美	28
濱口幸弘	29
森田正隆	30
吉田真	31

## 演習の履修を希望する皆さんへ

2020年9月1日

経済学部長 佐々木百合

大学時代のゼミの思い出を教えてください、と言われたら、いろいろなことが頭に浮かびます。初めてのプレゼンテーションを時間かけて準備したこと、他ゼミとのディベートで緊張したこと、ゼミ合宿で遅くまでお酒を飲んだり、遊園地にいったりしたことなど。そして、その体験を一緒にした友達は今でも連絡を取り合っています。それくらい大学時代のゼミ活動というのは印象深いものです。

大学に入ってから「講義」というのは、一人の先生が教えて、それを生徒が聞く、という形式がほとんどだったと思います。「ゼミ」はこれに対して、生徒が主体となって進めていき、先生は横で聞いていて、それにアドバイスしたり、質問を施したりするだけです。ゼミ生ひとりひとりが責任をもって参加して、調べたことを発表したり、グループで議論したり、論文を書いたりします。したがって、勝手に休んだり、遅れて来たりすることはもちろん許されません。それは「講義」に置き換えれば、先生がお休みで休講になったり、先生が授業の途中から教室に来たりするのと同じだからです。よって、ゼミ生ひとりひとりが、責任をもって参加しなければゼミは成り立ちません。そして、それだけに、一緒にゼミをつくりあげた仲間との絆は強くなるのです。

このような「ゼミ」で、いったいどんなことができるのでしょうか。ゼミでは、各先生方が最も得意とする研究分野について学んだり、自分たちで関連したテーマについて研究したりすることができるようになります。例えばテキストの担当箇所をわかりやすくまとめて発表したり、それについてみんなで議論したり、データ分析をしたり、ディベートのために様々な資料を調べたりします。経済学・経営学をただ「学ぶ」、のではなく、様々な問題を経済学・経営学を使って分析・研究するのです。4年生で書く卒業論文は、ただ何かについて調べてまとめる「レポート」ではなく、しっかりとした学問的基礎に基づいて行われた分析を読み込んで、それらを自分の考えに従ってまとめたり、ときには独自のアンケートや独自のデータ分析をそれに加えたりします。

以上のようなゼミ活動をぜひ皆さんに体験していただきたいと思います。まずはこの冊子を読んで、どんなことを学び、研究してみたいかを考えてみてください。みなさんのゼミ活動が、充実したものになることを願っております。

# 犬飼 佳吾 ゼミナール【実験経済学研究室】

## 演習のテーマ

行動経済学、実験経済学、ニューロエコノミクス

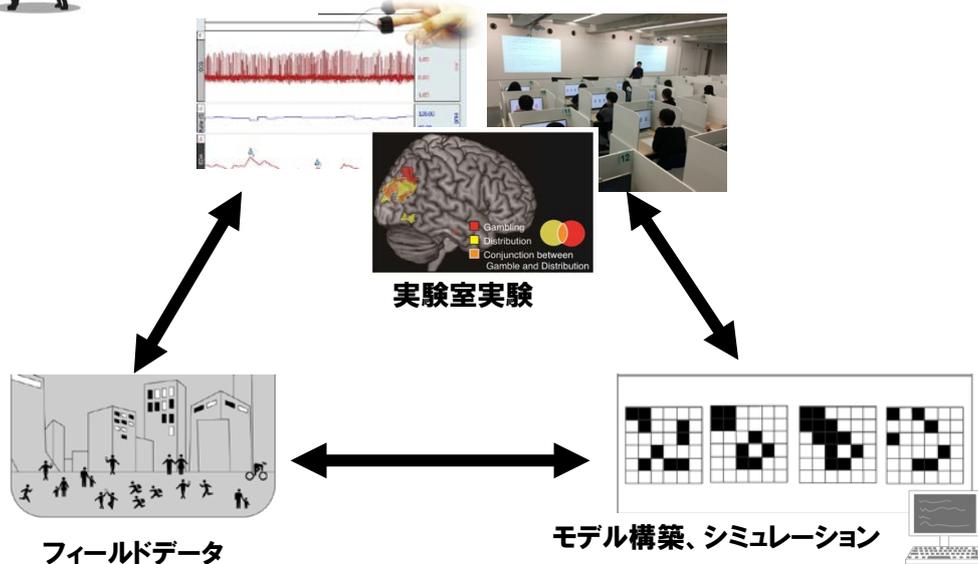
## 演習の内容

このゼミでは、実験という手法によって、私たちの意思決定や行動原理、経済の仕組みを理解することを目的としています。ゼミの学生は、実験研究に関する背景知識の学習を進めたうえで、教員と相談しながら実験研究のプロジェクトを進めます。研究を進めていくなかで、経済学の考え方や理論を学ぶだけではなく、実際の私たち自身の行動の仕組みについて理解し、より良い意思決定や社会の仕組みを考えていきたいと思えます。

ゼミで扱う研究範囲は多岐にわたります。たとえば、私たちの意思決定のクセや特徴を調べたり（行動経済学）、経済や社会の仕組みを実験によって検討したり（実験経済学）、経済学的な意思決定や判断をしているときに脳や体の中でどんなことが起こっているかを研究（ニューロ・エコノミクス）します。これらの課題について教員やゼミ生と議論しながら、卒業論文にむけて研究を進めていきます。

また、このゼミは従来のゼミの枠組みを超えて、実験経済学研究室という単位のもと、国内外の研究者と連携しながら先端研究を推進しています。

生物として「ヒト」と経済学や社会科学が対象とする「人」との間をつなぐ研究に興味をもち、強い情熱や好奇心のある方を募集します。



## 岡本 実哲 ゼミナール

### 演習のテーマ

ミクロ経済学・ゲーム理論の応用—オークション, マッチング, 社会的選択理論

### 演習の内容

このゼミでは、ミクロ経済学・ゲーム理論の応用として現実のマーケットや社会制度の設計をテーマに学びます。

あなたが何かモノを売りたいとしましょう。そのモノは「誰が一番高く買ってくれる」、また「いくらで買ってくれる」のでしょうか。一人ひとりいくらで買ってくれるか聞いて回るのも大変だし、そもそも聞いたところで正直に回答してくれるかもわかりません。またお店を開こうにもどのくらいの価格を付ければ上手くいくのかわかりません。

オークション（競争入札）は、そのモノに興味がある人に集まって競争してもらう場を設けることにより「一番高く買ってくれる人」と「価格」を見つける手段です。しかし、ひとえにオークションといっても様々なルールがあり、どのように競争してもらうかによって結果が変わってきます。オークション理論では、オークションのデザインによってどのように参加者の行動や結果が変わるのかを分析します。

今日、オークションはいたるところで行われています。美術品などの高価なモノを扱うイベントから、個人でも簡単に参加することができるインターネットオークション、国債や周波数帯利用権といった公共部門によるオークションまで、様々なオークションが開催されています。皆さんが Google で検索するたびに表示される広告もオークションで決まっていますし、メルカリでの販売もある種のオークションとして捉えることができます。ゼミではこういった現実の問題を念頭にオークションのデザインなどを学びます。

ここではオークション理論を例に挙げましたが参加者の興味関心に応じて、マッチングや投票制度の設計、産業組織論、契約理論などの関連分野も扱います。ゼミは、経済学の考え方を養うことも当然ですが、経済学を通して「自分なりの考え方を持つ習慣」や「自分の考え方を他人に伝える力」を養う場にもしたいと考えています。そのためゼミは講義を受けるのではなく、参加者各自が興味を持ったテーマについて発表してもらい、また発表を通して皆さんで議論していく形式で進めます。

## 神山 恒雄 ゼミナール

### 演習のテーマ

近代日本経済史(幕末開港～第二次世界大戦)

### 演習の内容

近代の日本経済(幕末開港～第二次世界大戦)について検討します。

近代日本経済史を学ぶ意義は、現代とは本質的に異なる側面を持つ近代日本経済の実態を解明することで、現代日本経済を相対化してその特徴を理解することにあります。

そこで、まず基礎的な知識を習得するために、近代日本経済史の展開を大筋で把握できる概説書を講読します。その上で、特定の分野や時期を対象とする最近の研究書・論文(たとえば明治期の鉄道史)を講読することで、日本の資本主義化が可能になった条件を考察します。

なお演習は毎回担当者を決めて発表形式で行いますが、発表担当者以外の参加者も討論に積極的に参加するために予習が不可欠です。また合宿などゼミの行事に積極的に参加・協力してください。

演習に関する質問は E-mail を利用してください。

(アドレスは [kamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp](mailto:kamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp))

## 神門 善久 ゼミナール

### 演習のテーマ

経済学の基礎固め

### 演習の内容

演習の進め方も含めて、学生の発意を求める。分で問題を発見し、考える習慣をつける。ミクロ経済学、マクロ経済学、時事英語、統計学など、基礎的な訓練を重視する。

## 齋藤 隆志 ゼミナール

### 演習のテーマ

労働経済学

### 演習の内容

このゼミの一番大きなイベントは、3年生の秋学期に実施する他大学との合同ゼミです。4~5人のグループを作り、労働経済学のテーマで興味のあるものを自分たちで選択し、計量経済学を用いた分析を中心とする研究報告をしてもらいます。では、労働経済学に関するテーマとはどんなものがあるのでしょうか。

皆さんにとって身近な労働というと、まずはアルバイトでしょう。しかし、アルバイト一つをとっても、同じ仕事なのに時間や場所によって時給が違います。正社員とアルバイトが同じ仕事をしているのに、時給が全然違うということもあります。また、パートに代表される「非正社員」の割合が高くなり、多くは女性ですが、何故でしょうか。

さらに最近では人手不足を背景に、外国人労働者が増加し、AIやロボットに代表されるように人の代わりに働いてくれるような技術も進展しています。コンビニ等でも外国人の店員さんをよく見かけますし、無人レジも増えています。これらが、日本の労働者にどのような影響を与えるのか。失業者を増やしたり賃金を低下させたりするのか、あるいはその逆なのか。もしくは良い影響を受ける人と悪い影響を受ける人が同時にいて、それらの間には何か違いがあるのでしょうか。

また、ほとんどの学生は在学中に就職活動を行います。企業にとっては採用活動ですが、日本は新卒一括採用がメジャーな存在です。採用されてから退職するまで、賃金の決定、仕事の割り当て、昇進・昇格の決定など、様々な人事制度のお世話になりますが、これらも研究対象です。例えば労働者にやる気を出してもらうには、どのような制度が良いのかということを考えます。経営学に近いテーマと思われるかもしれませんが、人事経済学という関連分野でこうした研究が行われているのです。

皆さんには、3年生の5月末ぐらいまでにグループの研究テーマを決めてもらい、その後関連文献(研究書、論文)を集めて読み、それを手本として自分たちでデータを収集し、夏休みから秋学期にかけて計量分析を行い、結果を解釈し、合同ゼミ用の報告資料を作ってもらいます。毎回のゼミでは、各グループでゼミ以外の時間に集まって作業した成果を発表してもらいます。

勉強以外にも、ゼミ生は毎月イベントを企画します。野球観戦、博物館等の見学、そして中でも夏合宿は大いに盛り上がります。このようにゼミとしての活動が多いため、一人一つ係を担当して運営をスムーズに進めてもらうことになります。サークル・部活・アルバイトとの両立は非常に大変ではありますが、学生生活が充実することは間違いありません。

## 齋藤 弘樹 セミナール

### 演習のテーマ

ゲーム理論とその応用

### 演習の内容

ゲーム理論とその関連分野を中心に学びます。3年次では、グループワークが中心となります。グループごとにトピックを選択し、自由な形式で報告・討論をします。過去のゼミでは、ゲーム理論の基礎、行動経済学、マッチング理論、オークションなどを扱ってきました。4年次では、個別のテーマに基づいて研究報告を行い、ゼミ生・教員との議論を通じて卒業論文の完成を目指します。ゼミ生は、一人一人が何らかの役割を持ち、能動的に参加することが求められます。

# 坂本 陽子 ゼミナール

## 演習のテーマ

国際経済学、空間経済学

## 演習の内容

### 本ゼミ

本ゼミは、火曜日の4限に3、4年生合同で行います。主に洋書（未定）の輪読を行います。2020年度は、後期に Enrico Moretti 著“The New Geography of Jobs”を読む予定です。

### サブゼミ

サブゼミは主に3年生を対象として、火曜5限に行います。サブゼミには各自ノートパソコンを持参してもらい、まずは Stata というソフトウェアを使ってデータ分析の方法を勉強します。Stata の使い方について一通り学んだ後は、班に分かれてグループワークしてもらいます。グループワークの成果は、11月（又は12月）のインゼミで発表してもらうほか、12月にグループ論文として提出してもらいます。

### 卒業論文

4年生は、本ゼミの活動と並行して卒業論文を執筆します。卒論では、原則として3年次で学んだ Stata を用いてデータ分析を行います。卒論のテーマは、空間経済学に関連しているもの（例えば、「国際貿易」「地域経済」「産業立地」「都市形成」や「不動産」「交通」「観光」など）を想定してしますが、担当教員が指導可能なものであれば個々の学生の興味に従って自由に設定できます。卒論はサブゼミ（火曜5限）の時間で取り組むものとし、進捗についての面談などもこの時間に行います。

### その他

ゼミは学生が主体となって運営していくものですので、どのようなゼミになるかはゼミ生一人一人の姿勢にかかっています。ゼミ活動はある程度の時間的拘束を伴うということを理解した上で、それを厭わず積極的にゼミ運営に参加する意志のある学生を3期生として募集します。

## 佐々木 百合 ゼミナール

### 演習のテーマ

金融・国際金融

### 演習の内容

佐々木ゼミでは、金融、国際金融に関連するトピックスを取り上げて研究する。具体的には、まず広く浅く金融・国際金融の知識をつけるためにテキストを輪読して研究上必要な基礎的な内容について学習する。次に、トピックを決めてそれについてグループで研究をすすめ、ゼミ内や他大学のゼミとディベートをすることで理解を深める。その後ゼミ内で研究発表を行う。また、月に数回コンピュータを利用して、テーマに関連したデータを集めて統計的に分析したり、研究成果をプレゼンテーションしたりする。その他、ゼミでは株式運用レース、投信レースに参加したり、見学・合宿・コンパなどの課外活動も行う。

参考として、ゼミで扱うトピックや、卒論に取り上げる題材は、例えば「日本の金融政策の検証」「為替相場の貿易収支への影響」「フィンテックの影響と今後の展望」などである。

ゼミは学生中心に進めるので、しっかり学びたいという気持ちを持ち、積極性のある学生を希望する。

## 白井 誠人 ゼミナール

### 演習のテーマ

日本経済論(特に就職先企業の経済分析)

### 演習の内容

ゼミ生の就職活動や卒業後のビジネス能力を考慮し、以下の内容を予定しています。

3年生： 近年の産業・企業研究の成果を踏まえ、論理思考力やコミュニケーション力等のビジネス基礎力を学修しながら、実際の企業経営者が求める人材と能力について考察します。就職面接時に「大学時代に何を学んだのか」「将来への自己投資として何をしたのか」を明確に説明できるように鍛錬します。応用課題として、大学生活や就職、問題解決等についてのディスカッションテーマを少人数チームで議論し、各チームの結論を個別に発表した後、全員で検討するグループディスカッションを行います。

同時に春学期と夏休みのサブゼミで就職希望業種・企業の歴史、現状や展望、課題等の情報収集および分析作業を進めてもらい、秋学期に経済指標や各種資料を用いた業界分析の発表、相互の志望業界の情報交換および議論を予定しています。

4年生： 自分の就職先企業・産業や仕事内容をより深く考察するために、3年次で養った基礎知識を下地にして産業・企業研究についての代表的文献を要約してもらい、分析視点や手法の土台を構築します。その土台を立脚点として、卒業後、実際に就業して所得を得ることになるビジネスの収益メカニズムや企業組織の構造、業界での位置付け等を考察、将来の予測分析を試みます。

## 鈴木 岳 ゼミナール

### 演習のテーマ

政治哲学・道徳哲学

### 演習の内容

現代の民主的な社会の市民にとって、どのような政策・制度が正当であり、市民はいかなる自由と権利を持ち、いかに行動すべきであるかといった事柄に対して判断を下すことは、各人に課せられた責任である。責任ある判断とは、もちろん単なる伝聞や「世間の常識」ではなく、自身による理性的根拠を伴う判断を意味する。残念ながら、経済学の知識だけではこうした事柄を判断するために十分な理性的根拠を得ることはできない。またそもそも、こうした事柄の全てを教えてくれる 一つの 学問などは存在しない。これらは政治哲学に属する問題であるが、「哲学」とは出来上がった学説・理論を教示する学問ではなく、ただ同じ哲学的関心を持つ仲間との議論を通じて少しでも理解を深めていこうとする一種の 実践 である。

そこでこのゼミでは、M. サンデル著『これからの正義の話をしてしよう』の輪読を通じて政治・道徳哲学の諸問題を議論する。ゼミ生は担当として割り当てられた箇所を数ページのレジюмеにまとめてゼミの初めに発表し、その後で各人は質問や意見を述べて、議論を行う。こうして始まった議論が首尾一貫したものとなるか、何らかのまとまった結論を得るにいたるかどうかは、全く分からない（大抵はそうはならない）。つまり哲学では、何らかの「成果」と呼ばれ得る結論を生み出すことは一般には極めて難しいことなのである。ただ自分とは異なる意見を聞き、考えを述べ合い、説得に努め、相手の考えを納得した場合にはそれを受け入れる、といった過程（それが議論である）を通じて自分自身の意見・考えを深めることができたならば大成功と言うべきなのである（実はこれすらもまた大変に難しいのであるが）。

従って、こうした議論に加わらずにただ他のゼミ生のやり取りを聞いているだけでは、収穫は少ないだろう。教科書について自分の担当箇所でないところも予め読んでおき、積極的に議論に参加することが望ましい。またこのゼミの目的はあくまで上に述べた諸問題についての各人の考えを深めることであって、サンデル教授の著書に対する理解度を試すことではない（もちろんゼミは教科書に対する十分な理解を前提として進めるが）から、教科書のみならず、日ごろからニュースや各種報道に注意を払い、現代社会（かならずしも日本に限らない）で生じている諸問題に関心を持つこともまた大切である。

## 高松 慶裕 ゼミナール

### 演習のテーマ

財政学，公共部門の経済学

### 演習の内容

財政学は、狭義には政府が資金をどのように調達し、どのように支出するか、を研究する学問で、広義には政府（公共部門）の経済活動を対象にした経済学です。主たる研究対象は、租税（所得税、消費税、法人税など）、公債（財政赤字の持続可能性や公債の負担、財政再建など）、社会保障（年金、医療保険、介護保険、生活保護など）、地方財政・政府間財政などですが、他にも予算制度や財政政策などカバーする領域は多岐にわたります。ゼミのテーマは、広く公共部門の経済学の中から学生主体で決めてもらいます。

ゼミの進め方は以下のとおりです。

3年生：財政学の教科書を輪読し、財政学の基礎理論や考え方、制度について学び、何が問題かを考察します。同時並行で、4名前後のグループ毎にテーマを設定し共同研究を行います。その成果は論文にまとめ、11月頃のインターゼミ大会または他大学との合同ゼミ、懸賞論文等、学外で発表・公表する予定です（公表先は学生と相談の上決定します）。加えて、各自テーマを設定し、年度末までに卒業論文に向けた中間論文（1万字以上）を提出してもらいます。

4年生：各自のテーマに基づき、卒業論文（2万字以上）を作成します。前期は3年時に提出してもらった中間論文の添削指導から始めます。その後は、ゼミで進捗報告を行っていきます。11月頃には3年生との合同ゼミで卒論の中間報告を行ってもらう予定です。

このように、高松ゼミの基本方針は「論文を書くこと」にあります。グループの共同論文、中間論文、卒業論文と最低3回は書く機会があり大変かもしれませんが、勉強になるはずで、財政学（または経済学）の領域から自分（達）自身で問題を設定し、それを経済学的に分析し、結果を論理的に表現できるようになることを目指します。

このゼミは2020年度開設の新しいゼミです。2021年度は2期生になります。恒例行事として、歓迎会や夏合宿なども行います。特に共同研究を学外で発表する（インターゼミ大会に参加する、または他大学との合同ゼミを行う）ためには、ゼミ生一人一人がゼミ運営に積極的になり、主体的に関与する必要があります。このゼミを2期生として教員とともに作り上げてくれる熱意のある学生を求めます。

## 千葉 正憲 ゼミナール

### 演習のテーマ

ヨーロッパの歴史・文化・経済

### 演習の内容

このゼミでは、ヨーロッパの歴史・文化・経済を学ぶ。

ヨーロッパは、中世中頃までは世界の片田舎にすぎなかったが、近代に入ると、急速に力をつけ、遂に世界を制覇するに至った。しかし、第一次世界大戦を境に、「西洋の没落」が顕在化し、第二次大戦はこの傾向に拍車をかけた。幸いにも、第二次大戦後、ヨーロッパは蘇り、現在では欧州連合（EU）を形成して、米国や中国、ロシアに対峙している。このような長い歴史をもつヨーロッパについて理解を深めることが本演習のねらいである。あるドイツの政治家は「過去に目をつぶる者は、現在に対して盲目になる」と述べたが、本ゼミでは、この言葉を噛み締めながら、学習を進める。

3年次の演習では、(1) 樺山紘一『ルネサンスと地中海』（中央公論新社）、(2) 水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社）、(3) 草光敏雄他『ヨーロッパの歴史Ⅰ』（放送大学教育振興会）、(4) 岩田健治他『現代ヨーロッパ経済 第5版』（有斐閣）などの文献を全員で読む。これらの文献の講読を通じて、基礎知識を習得するとともに、文献や資料の読み方、資料の収集方法、発表の仕方、討論への参加の仕方、文章の書き方などを学ぶ。

4年次には、各自テーマを設定して卒業論文を作成する。演習参加者は、卒論作成に必要な資料の収集を進め、卒論のテーマに関する研究を深める。授業では、輪番で、卒論に関する研究発表（中間発表）をおこなう。中間発表をめぐるゼミ生全員によるディスカッションを通じて、論点を絞り込み、卒論の内容を深めていく。

演習での勉学で十分な成果を挙げるためには、(1) 読書好きであること、(2) 知的好奇心と問題意識を持っていること、(3) 調査・研究を厭わないこと、が肝要である。意欲のある学生の参加を歓迎する。

## 中野 聡子 ゼミナール

### 演習のテーマ

経済学史、経済思想史、現代経済学 of 思想背景

### 演習の内容

この演習は、経済学史・経済思想史をベースにしながら、現代に到るまでの経済学の基本的な考え方を習得することをねらいとしています。つまり、経済理論や思想が、どのような時代や場所で、どのような文脈で出てきたかを参照しながら、現代の経済学の理解を深めようとしています。さらに、現代の経済学の問題点や可能性を探るために、様々な学説の限界と意義を検討します。したがって、経済学に今ひとつ理解できない部分がある、あるいは、もう少しその意味を深く考えたいというような問題意識のある学生の参加を想定している。

例えば、A.スミスは、経済自由主義をどのような思想で捉えていたか？経済学という学問はどのような経緯で誕生したのか？J.M.ケインズの経済政策は、どのような思想に裏付けられて登場したのか？F.ナイトは、不確実性をどのように捉えたか？企業の役割や機能を、経済学ではどのように捉えてきたか？経済学の実証的な方法は、どのようにして現れてきたか？など、ミクロ経済学やマクロ経済学の背景にある経済学の考え方を総合的に見ていきます。

2021年度は、春学期中に経済学の歴史を概観し、夏休みから秋学期にかけて、特定のテーマを研究します。特に、アダム・スミスの経済自由主義の思想を検討し、経済学の成立期の株式会社制度、分業組織、特許や著作権に関わる市場制度についての理論史、思想史を扱います。

## 中村 友哉 ゼミナール

### 演習のテーマ

合理的な行動と非合理的な行動の分析（情報の経済学、行動経済学）

### 演習の内容

このゼミでは、人間の「合理的な行動」と「非合理的な行動」を学び、経済学を日常生活に応用するトレーニングを行います。

「合理的な行動」は担当教員が開講する「情報の経済学1、2」で学習します。情報の経済学はゲーム理論を発展させた分野です。合理的な人間を想定して、不確かな情報のもとでの「かけひき」を分析します。情報の経済学の学習によって「**かけひきを合理的に分析する力**」を身に付けます。ゼミは「情報の経済学1、2」の内容を前提に進めます。

ゼミの時間は、行動経済学のテキストを輪読します。行動経済学は、心理学の知見を経済学の枠組みに取り入れて、人間の「非合理的な行動」を分析する分野です。計画の先送りやダイエットの失敗といった「意志の弱さ」は、非合理的な行動の代表例です。行動経済学を学ぶことで、「**非合理的な行動と付き合う方法**」を身に付けます。

また、ゼミではチームでテキスト内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム）など、プレゼンの機会を多く作ります。プレゼンを通じて、相手に自分の考え方や意見をわかりやすく「**伝える力**」を身に付けます。

教員と現在の所属学生、そして、新しく加わる学生がお互いに協力して、ゼミを作っていきたいと考えています。人それぞれに得手不得手があります。その中で、自分なりに貢献できることを見つけて、ゼミ活動に協力的に取り組んでいける人を歓迎します。

## 室 和伸 ゼミナール

### 演習のテーマ

マクロ経済学

### 演習の内容

マクロ経済学は、国内総生産（GDP）、物価、失業率の動向を把握し、一国経済全体を定性的・定量的に分析する。経済の仕組みや法則性がわかれば、経済予測や資産運用などにおいて、私達が生活していく上で役に立つ。さらに資本主義経済を深く理解することにつながる。

マクロ経済学の重要分野である経済成長について考察し、経済発展の謎を解き明かそう。

長い歴史を振り返ると、経済成長とは1880年頃から1973年までの約100年間で起こった特別な現象だったのだろうか？それとも今後も持続的な成長が可能なのだろうか？豊かな暮らしをしている国と、貧しいままの生活をしている国があるのはなぜか？以下に挙げるような様々な側面から経済成長に不可欠な要因は何かについて考えてみよう。石油や森林などの天然資源の豊富さ、人口増加、移民、長寿化、法の支配に基づく司法制度、個人の財産権の保障、政治的安定性、教育や職場での訓練による人的資本の形成、企業の設備投資による物的資本の形成、研究開発投資や発明による新技術の誕生、農業から製造業とサービス業への産業構造の変化、金融政策と物価の安定性、公共資本、交通や通信などのインフラの整備、産業の地理的な集積、産業間貿易と産業内貿易、信用市場の整備、税制の在り方、政府支出の使い方とその大きさ、労働環境、労働組合の交渉力、情報、文化。

ゼミでは経済成長に関する文献を輪読する。あらかじめ該当箇所を割り当てておき、学生がプレゼンテーションをする。課外活動やゼミ合宿にも積極的に参加すること。ゼミはともに学び合いの場であり、教育を通じた人間形成の場としたい。

## 赤松 直樹 ゼミナール

### 演習のテーマ

マーケティング、消費者行動

### 演習の内容

このゼミナールでは、「消費者の視点に立ちマーケティングについて分析すること」を基本的なスタンスとしています。ここでの分析方法は特に制約を設けていません。研究論文や学術書の読み込みはベースとして必須ですが、例えば、仮説構築や仮説検証のために利用するデータの種類の問いません（定量データ、定性データなど）。

基本的には、グループワークが中心です。最初は、既存データや共通の課題に関して各グループで研究を進めてもらいますが、後半段階からは、研究テーマや課題設定、データ収集・分析など一から研究をはじめて、その成果を報告してもらいます。これには、ある程度の時間と議論を要するため、ゼミナールの時間外でもグループワーク等を自主的に行うことが求められます。また、他大学のマーケティングゼミとの勉強・研究会、討論会などにも参加する予定です。

ゼミナールを通じて勉強・研究に打ち込むことで、物事の考え方・議論の仕方などを深めていきたい、長期にわたって付き合っていける友達を作りたい等、大学生活をより一層充実させたいと考えている学生をお待ちしています。

## 飯田 浩司 ゼミナール

### 演習のテーマ

コンテンツビジネスと法

### 演習の内容

このゼミでは、いわゆる「コンテンツビジネス」に関して、ビジネス面と法律面での問題点を検討します。一口にコンテンツビジネスと言っても、出版産業、音楽産業、映画産業、アニメ産業、ゲーム産業、演劇産業、放送業、インターネット産業、コンピュータソフト産業など多岐にわたっていますが、このゼミではとりわけ、音楽産業などのエンタテインメントに関連するビジネスを中心に取り上げたいと思います。

ビジネス面に関しては、それぞれの産業が抱える今日的課題や将来像の考察が中心となり、また、法律面に関しては、著作権法の考察が中心になるかと思いますが、その他のもコンテンツビジネスに関する法(例として、特許法、契約法、独占禁止法等)についても取り上げることができればと考えています。

3年次春学期は、コンテンツビジネスを理解する上で不可欠な著作権に関する知識を習得します。秋学期は、コンテンツビジネスの各業界の概要や直面する問題等について、グループまたは個人で予習の上、発表してもらうことを考えています。4年次は各自テーマを設定して卒業論文を作成します。コンテンツビジネスを対象とするゼミなので、実際のコンテンツビジネスの現場(レコーディングスタジオ、テレビ局、新聞社等)を見学したり、コンテンツビジネスの現場で働く人の話を聞いたりするなどの機会を設けていきたいと考えています。また、ゼミ合宿や懇親行事も実施する予定です。

## 池尾 恭一 ゼミナール

### 演習のテーマ

消費者行動とマーケティング戦略

### 演習の内容

今日、わが国企業を取り巻く環境は、世界経済における日本経済の立ち位置の変化、消費者行動の変化、従来型競争力の行き詰まり、情報通信技術の発展やグローバリゼーションの進展、そしてなによりも新型コロナウイルス感染症の流行にともなう生活様式やビジネスのあり方そのものの変化など、多くの面で大きく変化しています。そのなかで、どのような製品を販売するか、価格をいくりにするか、どのような広告を行うかなどを方向付けるマーケティング戦略は、大きな転機を迎えています。本ゼミナールにおいて取り扱うテーマには、メーカーやサービス業のこうしたマーケティング戦略の検討、あるいはその基礎となる消費者の行動や顧客の行動の理解、さらには小売業態や電子商取引といった流通問題の分析などが含まれます。具体的には、現在わが国で起こりつつある環境変化を踏まえながら、個々の製品・サービス分野における顧客の行動や競争業者の行動を理解し、マーケティング戦略やそれを支える仕組みを検討していく予定です。

## 稲山 健司 ゼミナール

### 演習のテーマ

経営戦略論・経営組織論

### 演習の内容

このゼミナールでは、企業における多様な現象（戦略策定・実行、イノベーション、新製品開発、企業革新など）を理解するためのスキルを修得することを目指します。そのために、以下を学習の柱とします。

- 経営戦略論、経営組織論などに関する文献を読む。このことを通じて、経営現象を理解するための基礎的なコンセプトとフレームワークを獲得することを目指します。
- 事例研究を行う。事例研究では、経営現象を経営戦略論・経営組織論の視点から分析することを目指します。

# 大竹 光寿 ゼミナール

## 演習のテーマ

マーケティング、消費者行動、消費文化、ブランド

## 演習の内容

本ゼミナールの狙いは、ユニークな研究を行うことを通じて、学問を深めるだけでなく、社会に何らかの貢献をし、得たものを卒業後の活動に繋げることにあります。

取り上げる題材は、企業経営として「マーケティング」、経営環境として「消費者行動」や「消費文化」、そしてそれら2つを結びつける「ブランド」です。文化という視点からマーケティングと消費との関係を検討し、大企業のみならず、スタートアップ企業にも着目して、ブランド・マネジメントについて理解を深めていきます。

ゼミナールでは、個人研究とグループ研究を並行して行います。個人研究については、卒業論文として、自分にとって切実な問いを設定し、自分なりの答えを出す作業を行います。そのために、関連するテーマの研究論文や学術書、研究方法に関する文献を読みその内容をゼミ生らと共有・議論したり、フォールド調査に出かけたりします。また、研究成果をゼミで随時発表して、ゼミ OBOG を含む実務家からもフィードバックをもらい、研究を深めます。グループ研究に関しては、関心が近いゼミ生とチームを組んで、現場でブランディングに携わる方々と接しながら、社会に対して何らかの貢献ができるようなプロジェクトを企画・実行してもらいます（下記参照）。

こうした個人研究とグループ研究を通じて、実務の現場との接点を学生なりに見つけて、学問と実践を行います。合宿や大学外での活動などについて学生の意見を取り入れながら、良き学びと出会いの場となるよう、ゼミナールを作り上げていきます。課外活動や OBOG 会の運営などにも積極的に携わる学生の参加を期待しています。

※グループ研究のテーマ（直近3年間）：各チーム（3名ほど）で秀逸なブランドを探して、ブランドブック（創業者、社長、職人、マーケター、取引先、顧客、ジャーナリストなど、そのブランドに関わる方々を実際に取材し、写真や文章などでブランドの本質をまとめた本）を作成する。そして、取材内容や共同プロジェクトの結果を社会に発信する。つまり、単に取材するだけでなく、自らコンテンツのマーケティングも行うことになる。取材を通じて実務家から学んでいるのでそれが活かせる。実務家や学者の本もそれに合わせて読み込む。協力先企業へのアポ取り、本社での企画提案のプレゼンも含めて学生主体で行う。学生の取り組み自体がメディアから取材を受け、取り上げられることもある。

・主な企業とブランド：アサヒ（玄米ブラン、カルピス）、クックパッド、SALASUSU、資生堂、D&DEPARTMENT、富士フイルム（写ルンです）、堀口切子、ミリメーター、森ビル

## 北浦 貴士 ゼミナール

### 演習のテーマ

日本企業の経営分析

### 演習の内容

このゼミでは、歴史的な視点をはじめとする様々な観点から、日本企業の経営を検討しています。ゼミ生同士が仲良くなり、居心地が良い雰囲気を作ることを最も重視しています。

演習 A1・A2 では、教員が指定した日本企業の経営を事例にして、企業分析の方法を学び、3年次終了までにゼミ論文（1万字程度）を執筆します。A3・A4 では、ゼミ生自らが設定したテーマに基づいて、卒業論文を執筆します。2021年度の演習 A1 及び A2 では、オリエンタルランド（東京ディズニーリゾート）の経営分析を行います。分析にあたっては、ビジネスをパーク・アトラクション・フード・グッズ・キャストの5つのチームに分類し、ゼミ生各自が1つのチームに所属します。各チームは2名、もしくは、3名によって構成されます。また、新型コロナウイルスがオリエンタルランドの経営に与えた影響を分析します。分析手法は、アンケート調査・インタビュー調査・有価証券報告書や中期経営計画書を用いた財務分析・新聞記事や雑誌記事を用いた分析・その他ホームページ上に公表されている情報を用いた分析です。最初に各分析手法について簡単に勉強した上で、実際に分析を行います。

このゼミでは、基幹科目で勉強する経営学に関する基礎的な理論をベースにして、実際の企業活動について考察を加えます。そのため、このゼミは、理論よりも実際の現場に関心のある方、経営学・マーケティング・会計学という3分野のうち、どの分野を専門的に勉強したらいいのかまだわからない方や3分野を満遍なく勉強したい方に向いているゼミです。ゼミの最大のイベントは、ホテル及びパークで実施する1泊2日の体験学習です。参加は自由ですが、参加すればきっと素晴らしい思い出になると思います。

## 齊藤 嘉一 ゼミナール

### 演習のテーマ

マーケティングと消費者行動

### 演習の内容

なぜたくさんの方が繰り返し東京ディズニーランドを訪れるのだろうか？なぜ多くの人たちが「スタバなう」とツイートするのだろうか？このゼミは、私たちの身近に起こっているマーケティング現象に「なぜ？」という問いを投げかけ、その問いに対して、消費者行動の立場から、ユニークあると同時に説得力のある答えを見つけることをねらいとしています。

マーケティング現象を説明するためには、文献からマーケティングや消費者行動の理論を学ぶことも求められますが、それだけでは十分ではありません。ゼミでは、身近にあるマーケティング現象に興味を持ち、マーケティング現象を理論に基づいて説明しようと試みることで、そして、理論に基づいて現象を説明しようという試みの中で生まれてきた仮説を、データを収集・分析することによって検証することを目指します。

理論を学ぶこと、データ収集と分析のスキルを身に付けることも大切ですが、現象を自分なりに説明しよう、自らが導き出した仮説を検証しようとする姿勢が何より大切だと考えます。主体性を持った学生諸君の応募を待っています。

## 佐藤 成紀 ゼミナール

### 演習のテーマ：

企業の会計システム

### 演習の内容：

企業の経営にとって会計システムは、その財政状態や経営成績に関する情報を提供するという、重要な役割を担っています。

ゼミナールでは、こうした会計システムに関する研究を、ゼミ生一人ひとりが主体的に進めることとなります。テーマは会計に関連があれば自由に選択できます。将来就職を希望している業界の企業について、収益性や資産効率性の調査を行ったり、会計制度や会計ルールの仕組みや問題点を考察したりするのもよいでしょう。あるいは、経営やマーケティングと会計の関わりを調べてみることも、有意義な研究です。

実際、各自のテーマを、すぐに見つけることは、なかなか難しいものです。そのような場合、基本の確認から始めると、自分の問題意識を発見できることが多いものです。そうした観点から、3年次前半では会計の基本を、英語の文献を使って学ぶことから始めます。いま、世界の決算書のグローバル・スタンダードとなっているのは、国際財務報告基準などに基づく英文決算書です。会計情報を英語でも理解できる人材がますます求められているという、現代のビジネス環境に適応できる能力を身につけていきます。

こうしたウォーミングアップをした上で、3年次後半からは、ゼミ生各自のテーマ探しが始まります。毎週、順番に関心のあるテーマについての個人報告を行います。ゼミでの報告とディスカッションを通じて、自分のテーマを模索して行くこととなりますが、そのプロセスがとても大切です。ゼミ生や教員から色々な意見が出されて、それを参考にしながら、自分のテーマへのアプローチを進めます。4年次では、卒論の完成を目指した個人報告を、さらに積み上げていきます。最初に選んだテーマから、次第に別のテーマに関心が移っていくことも多いのですが、それは、テーマを真剣に探している証拠でもあり、まったく自然なことです。誰もが、迷いながら目標を探すものですから。

ゼミでは、「学び」の楽しさを実感してもらえたらと思っています。自分で考え、自分の意見を持つこと、同時に他者の意見をしっかりと聞く力をつけること、そして改めて自分の意見を相対化してみる。そんなゼミナール体験を是非、楽しんでもらえたらと思っています。

## 鳥居 宏史 ゼミナール

### 演習のテーマ

管理会計

### 演習の内容

「楽しい時間を過ごしたい」が私のモットーです。そして、「自分の意見を述べよう」がゼミ運営上のポリシーです。

3年次ゼミは、管理会計の基本書にもとづいて、学生みずからによる報告と質疑応答形式で進められます。ピントが外れていても構いませんから、議論に積極的に参加する態度が大切です。ゼミ運営上のポリシーにのっとり、無発言の場合には罰金を課します（集めたお金は、モットーにしたがい、ゼミ生との楽しい時間を過ごすために利用されます）。4年次ゼミでは、各自が関心をもったテーマに沿った卒業論文の制作がメインになります。

管理会計を学ぶ上で必要となる教養知識として工業簿記と原価計算は必須です。少なくとも日商簿記検定試験2級に合格することが要請されます（申し込み時点での合否は問いません）。1級、公認会計士試験などの資格試験合格を目指すゼミ生には、個別的な相談で対応します。

研究分野の性格から、現実の企業動向に興味があることが望ましいでしょう。モノづくりの本質やおカネの動きを実感するために、実際の工場見学やバーチャルな株式学習ゲームへの参加も予定しています（2020年度は新型コロナ禍のため断念しましたが、それまでは、食品工場、自動車組立工場、航空機整備場の視察や証券取引所の見学をしました）。

ゼミの本質はもちろん勉強にあります。仲間同士の親睦を図ることも重要な要素と考えています。学生企画によるフィールド・スタディ等の企画も大いに歓迎します。

## 西村 三保子 ゼミナール

### 演習のテーマ

管理会計

### 演習の内容

企業会計は、その企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。また、平年は、9月に2泊3日の夏合宿、12月に他大学とのインゼミ（合同報告会）を行ないます。

3年次には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回、レジュメを作成し報告します。

4年次には、各自が興味を持ったテーマを選択し、自らが情報を収集して、報告・議論を行ない、卒業論文を執筆します。

報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力しましょう。

2年間のゼミ活動を通じて、学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができるような大切な仲間と出会えるとしたら、こんなに素晴らしいことはありませんよね？

## 西山 由美 ゼミナール

### 演習のテーマ

「税のエキスパートをめざす」

### 演習の内容

ビジネスに深くかかわる税(所得税・法人税・消費税・事業承継にかかる相続税)の仕組みを理解したうえで、ビジネス戦略を練ったり、問題点に対する解決策を考えたりします。税理士、国税専門官にとどまらず、民間企業の税セクションでも活躍できる「税のエキスパート」をめざしてください。

#### 【ゼミの進め方】

春休み中に予備ゼミを実施し、図書館スタッフによるサポート授業により、必要な資料や情報を収集するスキルを習得します。

春学期は、各人が興味をもつ税に関するトピック(たとえば、シェアリングエコノミーへの課税、環境税など)についてプレゼンテーションを行い、全員で議論し、レポートにまとめます。

夏休み中のゼミ合宿(1泊2日)では、秋学期の統一テーマである「グローバルビジネスとローカルビジネスと税」の予習をします。

秋学期は、「グローバルビジネスとローカルビジネスと税」について、各人がトピックを選び、プレゼンテーションを行い、全員で議論し、レポートにまとめます。

#### 【注意事項】

ゼミの内容は、税法の基礎知識を必要としますので、「ビジネスのための税法1」(春学期)および「ビジネスのための税法2」(秋学期)をできるだけ履修してください。

ゼミの運営には全員がかかわるよう、「一人一役」で業務を分担します。

## 浜口 幸弘 ゼミナール

### 演習のテーマ

戦略と人工知能 AI

### 演習の内容

本演習では、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）を十分に学習したうえで、企業の戦略に人工知能を利用する方法について、ユーザの立場から考察してゆきます。この人工知能の演習では、ユーザの立場から人工知能の仕組み理解し、企業のみならずいろいろな分野での人工知能を用いた戦略（娯楽なども含めて）および人工知能の可能性を扱うことにします。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度前半では、経営戦略に関する教科書読み進め、随時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。また後半では、AI の仕組みを理解したうえで、いろいろな分野への AI の利用を取り上げます。続く 4 年次では、卒業論文の製作を進めてゆきます。なお授業を補う形で、3 月下旬（2 年次）と 9 月下旬（3 年次）にゼミ合宿を行う予定です。

本ゼミナールでは、以下の学生を希望します。

1. 卒業論文を書く学生（ただし、4 年次での就活時は、就活を優先して可）。
2. ユーザの立場から人工知能を考える場合でも、一部、数学的知識の必要な場合があります。よって、高校文系数学の微分の意味を理解できる学生を希望します（問題は解けなくてもよい。必要事項は詳しく説明。）。

教科書は『経営戦略論入門』（日本経済新聞社）

人工知能本については、その時に選択。

## 森田 正隆 ゼミナール

### 演習のテーマ

情報技術とマーケティング戦略

### 演習の内容

本ゼミナールは、「情報技術とマーケティング戦略」の関係について考察し理解を深めていくことによって、これからの情報社会を自分自身で分析して意思決定し、そして創造的に行動していけるだけの知的能力・価値観・行動原理・人間性を養うことを目的としています。

輸送や通信の分野における技術革新は、社会体制はもちろん、生産と消費の両面に対しても創造的破壊をもたらし、次代の扉を聞く強力なパワーを秘めています。コロナ渦を機に、企業はテレワークを、大学はオンライン授業を本格的に導入しました。みなさんも情報技術の活用がいかに社会や生活のあり方を変えるかを身をもって経験されたことでしょう。

そこで、本ゼミナールでは、情報技術とマーケティングの関係について、過去の歴史や理論から学ぶとともに、現在世の中で起こっているさまざまな経済事象や経営問題を取り上げ、それらを理論的かつ経験的に考察し分析するという作業を繰り返しおこなっていきます。また、ケースディスカッション、ロールプレイング、ショートスピーチ・ビジネスプランなどの体験型・参加型の授業を数多くおこないます。そして、並行してグループ研究などの自主活動を課し、年末には研究成果発表会をおこないます。なお、正規の授業時間にさらに1コマ加えて、毎週2コマの連続授業をおこないます。自主的なグループ研究活動も含めてゼミのために割いていただく時間がかかり多くなります。それらのことを納得できる方のみご応募ください。

最近の卒業論文テーマをいくつか下記に紹介いたします。

- コレクションして満足してしまう時と消費にまで至る時の違いは何か：欲求や動機の違いに基づく漫画の消費行動に関する研究
- SNS のプロフィール画像が本人を特定できるものとそうでないものに分かれるのはなぜか：自己開示と自己呈示を促進するメカニズム
- 無料で読めるネット漫画の有料版が売れるのはなぜか：応援したいという気持ちが喚起する購買行動
- 似たような内容でも表現を変えるだけでリツイートは増やせる：Twitter におけるシンプルで淡々とした表現と情報拡散との関係
- なぜ YouTube の CM は不快に感じることが多いのか：能動的なメディア接触態度に合致した広告表現のあり方

## 吉田 真 ゼミナール

### 演習のテーマ

ドイツ語圏における文化と社会の関係を考える

### 演習の内容

テーマについては、担当者の指導できる範囲である限り、参加者の希望、関心をできるだけ広く取り入れたいと考えている。

基本的にはドイツと日本を比較しながら文化と社会の関係の問題を考える。たとえば過去に取り上げてきたテーマとしては、EUの成立と今後について、ユーロ危機、環境問題と原発の是非、学校教育、ドイツの自動車産業、ドイツの食文化、音楽と劇場文化、サッカーのブンデスリーガとJリーグ、ドイツと日本の戦後の憲法といったものがある。こうした問題について自由に議論をしてゆく。

Bゼミなので卒業論文はないが、卒論に準ずるようなレポート作成を目標とする。

発 行 日：2020年9月1日

編集責任者：佐々木 百合

編 集：明治学院大学 経済学部

〒108-8636

東京都港区白金台1-2-37